

A—90 茶の浸出条件と K, Na, P 溶出量との 関係

奈良女大家政 梶田 武俊
長谷川千鶴
中国短大 ○三宅 桂子

1. 茶の浸出条件を異にした場合、溶出 K, Na, P 量が茶の品質によってどのように変化するかを検討した。

2. K, Na は炎光分析法により、P は比色法により測定した。

3. その結果

① 茶の品質のよいものほど K, Na, P を多く含むことを認めた。

② 溶出温度が高く、溶出時間が長くなるほど K, Na, P いずれも溶出量の増加を認めた。

③ 浸出水の沸騰時間と溶出量との間には、一定の関係はみられなかったが、水の種類と溶出量との間には深い関係があることを認めた。